

平成26年度

柏崎刈羽原子力発電所周辺  
環境放射線監視調査結果

第2四半期（7月～9月）

平成26年11月

東京電力株式会社



# 目 次

I	監視調査結果の概要	1
II	監視調査の実施機関	3
III	監視調査の内容	3
1	監視調査項目	3
2	監視調査地点	4
(1)	空間放射線調査地点	4
(2)	環境試料採取地点	5
3	測定方法及び測定装置	6
4	表示単位及び測定値の取扱い方法	7
(1)	空間放射線	7
(2)	環境試料中の放射能	7
IV	監視調査結果	8
1	空間放射線	8
(1)	空間線量率	8
(2)	積算線量	9
2	環境試料中の放射能	10
(1)	浮遊じんの全ベータ放射能	10
(2)	核種分析結果(機器分析)	11
(3)	核種分析結果(ストロンチウム 90 の放射化学分析)	12
(4)	核種分析結果(トリチウムの放射化学分析)	12
V	参考	13
	海水放射能モニタによる測定	13
添付資料		
付表 1	空間線量率の月別測定結果	17
付表 2	積算線量の測定結果	23
付表 3	浮遊じんの月別全ベータ放射能測定結果	24
付表 4	環境試料の核種分析結果	26
付表 5	海水放射能モニタの月別測定結果	31
事象報告		
事象報告 1	平成 26 年度第 2 四半期の積算線量の測定結果について	37
事象報告 2	平成 26 年度第 2 四半期のホンダワラ類の測定結果について	39

## 単位の略字

単 位	単 位 の 略 字
ナノグレイ毎時	n G y / h
ミリグレイ毎91日	m G y / 91日
ベクレル毎立方メートル	B q / m <sup>3</sup>
ベクレル毎リットル	B q / ℓ
ベクレル毎キログラム乾	B q / k g 乾
ベクレル毎キログラム生	B q / k g 生

東京電力株式会社は、柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査を「平成 26 年度柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画」に基づき実施しているが、平成 26 年 7 月から 9 月までの第 2 四半期における監視調査結果をとりまとめたので報告する。

なお、本監視調査結果は、技術連絡会議で技術的検討を行い評価会議に諮るものである。

測定結果は、「対照期間」（福島第一原子力発電所事故の影響を除くため、原則として同事故前の 5 年（平成 17～21 年度）及び事前調査期間（調査開始～昭和 59 年 12 月まで））の測定値の範囲と比較して、次の 3 つに区分（計数誤差を考慮）した。

〔超える〕：測定結果の計数誤差を加味しても対照期間の測定値の上限値を超える場合

〔同程度〕：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えるが、計数誤差を加味すると対照期間の測定値の上限値と同程度となる場合

〔範囲内〕：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えない場合

ただし、空間放射線の対照期間の測定値との比較にあたっては、計数誤差を考慮せず、〔超える〕又は〔範囲内〕に区分した。

## I 監視調査結果の概要

平成 26 年 7 月から 9 月までの第 2 四半期に実施した柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査結果の概要は以下のとおりである。

### 1 空間放射線

#### (1) 空間線量率〈詳細は p8(1) 参照〉

9 地点のモニタリングポストにおける測定結果について、平均値の範囲は、32～39nGy/h、1 時間値の最高値の範囲は、61～68nGy/h、10 分値の最高値の範囲は、67～75nGy/h で、対照期間の測定値の範囲内であり、最高値は、すべて降水に伴い出現した。

なお、対照期間（事前調査期間を除く）の同一四半期における 1 時間値の最高値の範囲は、80～90nGy/h、10 分値の最高値の範囲は、81～98nGy/h であり、各地点の測定結果は、対照期間（事前調査期間を除く）の測定値の範囲内であった。

#### (2) 積算線量〈詳細は p9(2) 及び p37 事象報告 1 参照〉

18 地点における測定結果について、測定値の範囲は、0.11～0.14mGy/91日 で、対照期間の測定値の範囲内であった。

なお、対照期間（事前調査期間を除く）の同一四半期における最高値の範囲は、0.11～0.14mGy/91日 であり、各地点の測定結果は、刈羽村大沼及び柏崎市上原を除き、対照期間（事前調査期間を除く）の測定値の範囲内であった。

刈羽村大沼及び柏崎市上原については、対照期間（事前調査期間を除く）の測定値の範囲を超えた。

### 2 環境試料中の放射能

#### (1) 浮遊じんの全ベータ放射能〈詳細は p10(1) 参照〉

3 地点において 6 時間集じんの測定を行った。

集じん終了直後の測定結果について、最高値は、3.7Bq/m<sup>3</sup>、平均値は、1.1Bq/m<sup>3</sup> であり、各地点の測定結果は、対照期間（福島第一原子力発電所事故前の 2 年間に限り、事前調査期間を除く）の測定値の範囲内であった。

また、集じん終了 5 時間後の測定結果について、最高値は、0.15Bq/m<sup>3</sup>、平均値は、0.032Bq/m<sup>3</sup> であり、各地点の測定結果は、対照期間（福島第一原子力発電所事故前の 2 年間に限り、事前調査期間を

除く) の測定値の範囲内であった。

(2) 核種分析結果 (機器分析) <詳細は p11(2) 及び p39 事象報告 2 参照>

浮遊じん、陸水(飲料水)、畜産物(牛乳)、指標生物(松葉)、海水、海産物(サザエ) 及び指標生物(ホンダワラ類) の測定を行った。

その結果、従来から検出されているセシウム 137 が畜産物(牛乳)、指標生物(松葉)、海水及び指標生物(ホンダワラ類) から検出されたが、検出された値は、海水を除き、いずれも対照期間の測定値の範囲内であった。

海水については、対照期間の測定値の範囲と同程度であった。

なお、指標生物(ホンダワラ類) については、対照期間(事前調査期間を除く) の測定値の範囲を超えた。

(3) 核種分析結果 (ストロンチウム 90 の放射化学分析) <詳細は p12(3) 参照>

海産物(サザエ) の試料について、ストロンチウム 90 の測定を行った。

その結果、同核種は検出下限値未満であった。

(4) 核種分析結果 (トリチウムの放射化学分析) <詳細は p12(4) 参照>

陸水(飲料水) 及び海水の試料について、トリチウムの測定を行った。

その結果、陸水(飲料水) から同核種が検出されたが、検出された値は対照期間の測定値の範囲内であった。

## Ⅱ 監視調査の実施機関

東京電力株式会社 柏崎刈羽原子力発電所

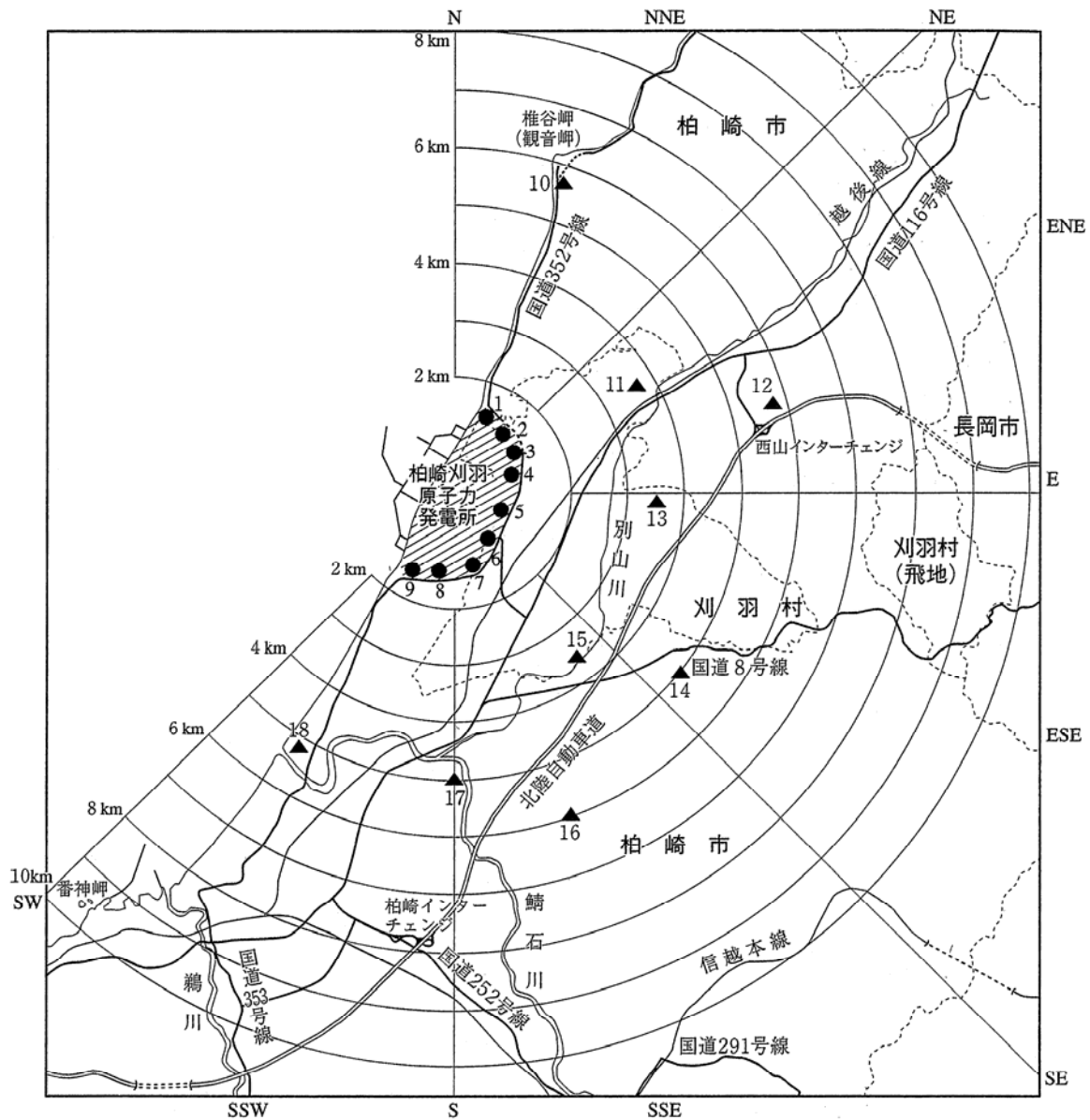
## Ⅲ 監視調査の内容

### 1 監視調査項目

- (1) 空間放射線
  - ア 空間線量率
  - イ 積算線量
- (2) 環境試料中の放射能
  - ア 浮遊じんの全ベータ放射能
  - イ 浮遊じん、陸水(飲料水)、畜産物(牛乳)、指標生物(松葉)、海水、海産物(サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)の核種分析

## 2 監視調査地点

### (1) 空間放射線調査地点



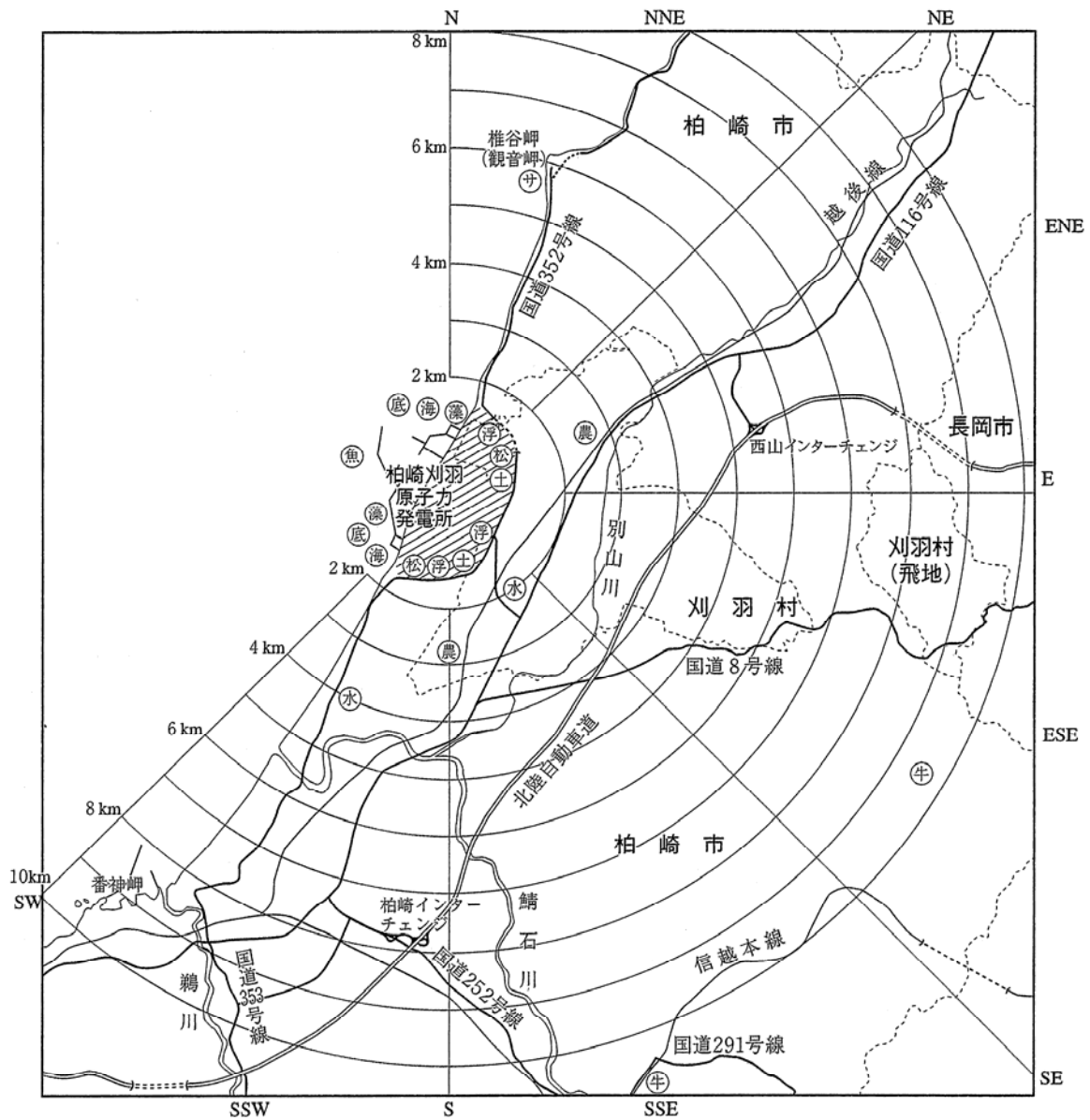
No.	調査地点	方位	距離(km)	No.	調査地点	方位	距離(km)
1	● MP-1	NNE	1.5	10	▲ 柏崎市椎谷	NNE	5.3
2	● MP-2	N E	1.5	11	▲ 刈羽村滝谷	N E	3.4
3	● MP-3	ENE	1.3	12	▲ 柏崎市西山町坂田	ENE	5.6
4	● MP-4	E	1.1	13	▲ 刈羽村井岡	E	3.5
5	● MP-5	ESE	0.9	14	▲ 柏崎市曾地	S E	5.0
6	● MP-6	S E	1.2	15	▲ 刈羽村大沼	S E	3.8
7	● MP-7	SSE	1.4	16	▲ 柏崎市与三	SSE	6.0
8	● MP-8	S	1.5	17	▲ 柏崎市上原	S	4.9
9	● MP-9	SSW	1.6	18	▲ 柏崎市松波	SSW	5.6

● : モニタリングポスト及び蛍光ガラス線量計ポスト

▲ : 蛍光ガラス線量計ポスト



(2) 環境試料採取地点



記号	環境試料名	採取地点	記号	環境試料名	採取地点
③	浮遊じん	MP-1、MP-5、MP-8	④	海水	放水口(南)付近 放水口(北)付近
⑤	飲料水	刈羽村 刈羽 柏崎市 荒浜	⑥	海底土	放水口(南)付近 放水口(北)付近
⑦	陸土	MP-2 付近 MP-8 付近	⑧	魚類	発電所前面海域
⑨	農産物	刈羽村 勝山 刈羽村 高町	⑩	サザエ	柏崎市 椎谷岬 (観音岬)
⑪	牛乳	柏崎市 東長鳥 柏崎市 北条	⑫	ワカメ、 ホンダワラ類	放水口(南)付近 放水口(北)付近
⑬	松葉	発電所 北側 発電所 南側			

### 3 測定方法及び測定装置

監視調査項目		測定方法	測定装置
空間放射線	空間線量率	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省編「連続モニタによる環境<math>\gamma</math>線測定法」(平成8年改訂)に準拠</li> <li>環境放射線監視テレメータシステムでの1時間計測繰り返しによる年間連続測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2" <math>\phi</math> × 2" NaI (Tl) シンチレーション検出器</li> </ul>
	積算線量	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境<math>\gamma</math>線量測定法」(平成14年制定)に準拠</li> <li>3か月積算の繰り返しによる年間連続測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛍光ガラス線量計</li> <li>素子主成分：銀活性リン酸塩</li> <li>蛍光ガラス線量計リーダー</li> </ul>
環境試料中の放射能	全ベータ放射能	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省編「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂)に準拠</li> <li>環境放射線監視テレメータシステムでの年間連続測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空气中放射性塵埃測定装置(浮遊じん)間欠移動ろ紙式</li> </ul>
	核種分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器分析法</li> <li>文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂)に準拠</li> <li>トリチウム</li> <li>文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に準拠</li> <li>ストロンチウム90</li> <li>文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に準拠</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲルマニウム半導体検出装置</li> <li>高純度ゲルマニウム半導体検出器</li> <li>低バックグラウンド液体シンチレーション検出装置</li> <li>低バックグラウンド自動測定装置</li> </ul>

#### 4 表示単位及び測定値の取扱い方法

##### (1) 空間放射線

項目	表示単位	測定値の取扱い方法
空間線量率	nGy/h	表示の数値は、10分値及び1時間値である。表示は整数とし、小数第1位を四捨五入してある。 10分値は、10分間の計測値からの1時間換算値である。 1時間値は、正時から次の正時までの1時間の積算値である。
積算線量	mGy	3か月積算値は91日に、年間積算値は365日に換算してある。表示は小数第2位までとし、小数第3位を四捨五入してある。

##### (2) 環境試料中の放射能

区分	試料名	表示単位	測定値の取扱い方法
全ベータ放射能	浮遊じん	Bq/m <sup>3</sup>	表示は原則として有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入してある。
核種分析	浮遊じん	Bq/m <sup>3</sup>	①表示は原則として有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入してある。 ②検出下限値は、次のとおりである。 ア 機器分析による検出下限値は、文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」（平成4年改訂）によるものである。 イ トリチウム及びストロンチウム90の検出下限値は、 $3 \times \Delta N$ としてある。 ただし、 $\Delta N$ は、放射能の計数誤差である。 ウ 検出下限値未満の測定値は、「*」で表してある。
	陸水	Bq/l	
	土壌	Bq/kg乾	
	農産物	Bq/kg生	
	畜産物	Bq/l	
	指標生物（松葉）	Bq/kg生	
	海水	Bq/l	
	海底土	Bq/kg乾	
	海産物	Bq/kg生	
指標生物（ホンダワラ類）	Bq/kg生		

## IV 監視調査結果

### 1 空間放射線

#### (1) 空間線量率

(単位：nGy/h)

測定地点	平成 26 年度第 2 四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)			福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 第 2 四半期の 測定結果 (H22～H25 年度)	
	測定時間 (時間)	平均値	測定値の範囲		福島第一原子力 発電所事故前の 第 2 四半期 (H17～H21 年度)	事前調査期間 (S57.4 ～S59.12)	1 時間値	10 分値	
			1 時間値	10 分値					1 時間値
MP-1	2,182	38	35～68	34～71	33～86	32～88	16～141	35～83	35～92
MP-2	2,186	32	29～61	28～71	27～82	26～83	6～130	29～74	28～82
MP-3	2,164	35	32～65	32～74	31～87	30～98	5～147	32～80	31～88
MP-4	2,185	36	33～65	33～69	32～87	32～89	5～146	33～81	33～90
MP-5	2,187	39	36～67	36～75	38～90	37～91	5～160	37～84	36～93
MP-6	2,194	36	33～66	33～70	33～87	32～88	5～174	33～80	33～87
MP-7	2,206	35	32～65	31～69	30～80	29～81	5～151	31～75	31～81
MP-8	2,206	33	31～63	30～67	29～86	28～87	5～143	30～73	30～79
MP-9	2,200	33	30～63	29～68	28～84	27～85	7～140	29～72	29～76
全地点	計 19,710	35	29～68	28～75	27～90	26～98	5～174	29～84	28～93

(注) 平均値及び事前調査期間の測定結果は、1 時間値である。

## (2) 積算線量

(単位：mGy/91日)

測定地点	平成 26 年度第 2 四半期の測定結果 (積算開始：H26. 6. 25 積算終了：H26. 9. 18 積算期間：85日間)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)		福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 第 2 四半期の 測定結果 (H22～H25 年度)	
		福島第一原子力 発電所事故前の 第 2 四半期 (H17～H21 年度)	事前調査期間 (S57. 4 ～S59. 12)		
発電所敷地境界付近	MP-1	0.13	0.13	0.12～0.16	0.13
	MP-2	0.12	0.12	0.09～0.17	0.12
	MP-3	0.13	0.12～0.13	0.09～0.15	0.12
	MP-4	0.12	0.12	0.08～0.15	0.12
	MP-5	0.13	0.13	0.09～0.15	0.13
	MP-6	0.12	0.12	0.09～0.15	0.12
	MP-7	0.12	0.12	0.09～0.14	0.12
	MP-8	0.12	0.12	0.10～0.14	0.12
	MP-9	0.11	0.11	0.10～0.14	0.11
	平均値	0.12	—	—	—
最高値	0.13	0.13	0.17	0.13	
最低値	0.11	0.11	0.08	0.11	
発電所周辺	柏崎市 椎谷	0.14	0.13～0.14	0.14～0.17	0.14
	刈羽村 滝谷	0.13	0.13	0.10～0.16	0.13
	柏崎市西山町坂田	0.13	0.13～0.14	0.09～0.16	0.13～0.14
	刈羽村 井岡	0.12	0.12～0.13	0.09～0.15	0.12
	柏崎市 曾地	0.14	0.14	0.09～0.17	0.14
	刈羽村 大沼	0.13	0.12	0.10～0.15	0.12～0.13
	柏崎市 与三	0.13	0.13	0.10～0.15	0.13～0.14
	柏崎市 上原	0.14	0.13	0.10～0.16	0.13～0.14
	柏崎市 松波	0.12	0.12	0.10～0.15	0.12
	平均値	0.13	—	—	—
最高値	0.14	0.14	0.17	0.14	
最低値	0.12	0.12	0.09	0.12	

- (注) 1 柏崎市松波については、平成 15 年度第 1 四半期から測定場所を約 12m 移動した。  
 2 平成 15 年度までの対照期間の測定結果は、熱蛍光線量計 (TLD) による値である。  
 3 柏崎市椎谷については、平成 20 年度第 2 四半期から測定場所を約 200m 移動した。

## 2 環境試料中の放射能

### (1) 浮遊じんの全ベータ放射能

#### ア 6時間集じんの測定結果

##### (ア) 集じん終了直後の測定結果

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

測定地点	平成26年度第2四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 第2四半期の 測定結果 (H22～H25年度)
	集じん 回数 (回)	平均 空気吸引量 (m <sup>3</sup> /回)	平均値	測定値の範囲	福島第一原子力 発電所事故前の 第2四半期 (H20～H21年度)	
MP-1	364	72.2	1.1	0.15～2.9	0.18～4.5	0.080～4.2
MP-5	362	73.3	1.1	0.11～3.4	0.17～4.4	0.063～3.9
MP-8	362	75.5	1.1	0.13～3.7	0.17～4.4	0.066～4.4
全地点	計1,088	73.7	1.1	0.11～3.7	0.17～4.5	0.063～4.4

(注) 1 測定時間は、すべて10分間である。

2 平成20年2月より測定方法を変更し、測定を開始した。

##### (イ) 集じん終了5時間後の測定結果

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

測定地点	平成26年度第2四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 第2四半期の 測定結果 (H22～H25年度)
	集じん 回数 (回)	平均 空気吸引量 (m <sup>3</sup> /回)	平均値	測定値の範囲	福島第一原子力 発電所事故前の 第2四半期 (H20～H21年度)	
MP-1	364	72.2	0.028	*～0.12	0.00018～0.17	*～0.20
MP-5	362	73.3	0.035	*～0.15	*～0.17	*～0.23
MP-8	362	75.5	0.033	*～0.15	0.00040～0.18	*～0.22
全地点	計1,088	73.7	0.032	*～0.15	*～0.18	*～0.23

(注) 1 測定時間は、すべて10分間である。

2 平成20年2月より測定方法を変更し、測定を開始した。

3 \*は検出下限値未満を示す。

(2) 核種分析結果（機器分析）

試料名	単位	平成 26 年度 第 2 四半期 の測定結果 (測定値の 範囲)	平成 26 年度 第 1 四半期 の測定結果 (測定値の 範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)		福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 測定結果 (H22～H25 年度)
				福島第一原子力 発電所事故前 (H17～H21 年度)	事前調査期間 (S59.12 まで)	
浮遊じん	Bq/m <sup>3</sup>	Cs-137 *	Cs-137 *	*	* ～ 0.00011	* ～0.00058
陸水 飲料水	Bq/l	Cs-137 *	Cs-137 *	* ～0.0015	*	* ～0.0016
土壌 陸土 (0～5cm)	Bq/kg乾	/	Cs-137 3.1 ～5.0	2.2 ～7.7	0.85 ～29	1.4 ～5.0
畜産物 牛乳 (原乳)	Bq/l	Cs-137 * ～0.017	Cs-137 *	* ～0.022	0.030～ 0.25	* ～0.032
指標 生物 松葉 (2年葉)	Bq/kg生	Cs-137 0.028～0.11	Cs-137 0.071～0.15	0.032～0.37	0.18 ～ 6.7	* ～2.8
海水 (表層水)	Bq/l	Cs-137 0.0022～ 0.0042(注)5	Cs-137 0.0019～ 0.0032	* ～0.0040(注)5	0.0037	* ～0.0030
海底土 (表層土)	Bq/kg乾	/	Cs-137 *	*	*	* ～0.91
海産物	マダイ (可食部)	/	Cs-137 0.10	0.085～0.16	0.21 ～ 0.24	0.080～0.16
	ヒラメ (可食部)	/	Cs-137 0.13	0.11 ～0.16	0.24 ～ 0.28	0.11 ～0.20
	サザエ (可食部)	Cs-137 *	/	*	0.093	* ～0.058
	ワカメ (葉茎)	/	Cs-137 *	*	0.078	*
指標 生物 ホンダワラ 類(葉茎)	Bq/kg生	Cs-137 * ～0.089	Cs-137 *	*	* ～ 0.16	* ～0.26

(注) 1 人工放射性核種が検出されない試料については Cs-137 を記した。

2 \*は検出下限値未満を示す。

3 放射能濃度の有効数字は2桁である。

4 松葉については、平成 21 年度より採取地点を拡大し、従来のMP-2 付近及び発電所北側を発電所北側に、従来のMP-8 付近及び発電所南側を発電所南側にそれぞれ変更した。

5 計数誤差を併記した海水の Cs-137 濃度：0.0042±0.0006（対照期間：0.0040±0.0006）

(3) 核種分析結果（ストロンチウム 90 の放射化学分析）

試料名	単位	平成 26 年度 第 2 四半期 の測定結果 (測定値の 範囲)	平成 26 年度 第 1 四半期 の測定結果 (測定値の 範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)		福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 測定結果 (H22～H25 年度)	
				福島第一原子力 発電所事故前 (H21 年度)	事前調査期間 (S59.12 まで)		
土 壤	陸 土 (0～5cm)	Bq/kg乾	/	*	0.21	—	* ～ 0.22
畜産物	牛 乳 (原 乳)	Bq/l	/	*	*	—	* ～ 0.022
海産物	サザエ (可食部)	Bq/kg生	*	/	0.023	—	* ～ 0.015
指標生物	ホンダワラ類 (葉 茎)	Bq/kg生	/	0.045	0.058	—	0.041～ 0.057

- (注) 1 \*は検出下限値未満を示す。  
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
 3 Sr-90 は、平成 21 年度より測定を開始した。

(4) 核種分析結果（トリチウムの放射化学分析）

試料名	単位	平成 26 年度 第 2 四半期 の測定結果 (測定値の 範囲)	平成 26 年度 第 1 四半期 の測定結果 (測定値の 範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)		福島第一原子力 発電所事故発生 年度以降の 測定結果 (H22～H25 年度)	
				福島第一原子力 発電所事故前 (H17～H21 年度)	事前調査期間 (S59.12 まで)		
陸 水	飲 料 水	Bq/l	0.35	*	* ～ 1.2	1.6 ～ 4.4	* ～ 0.60
海 水	(表層水)	Bq/l	*	*	* ～ 0.82	1.4 ～ 2.9	* ～ 0.60

- (注) 1 \*は検出下限値未満を示す。  
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
 3 海水の対照期間における測定値の範囲について、平成 20 年度第 4 四半期の測定値 (3.5Bq/l) は、放射性液体廃棄物の計画放出の影響を受けていると考えられることから除外した。



## V 参 考

### 海水放射能モニタによる測定

#### (1) 測定結果

海水放射能モニタの測定値は、降水等に含まれる自然放射性核種の影響を受けて上昇しますが、その影響は各放水口に流れ込む降水の量と放流される冷却水量との比率により異なります。冷却水量は各号機の運転状況により変動するため、各号機で検出されるレベルが異なることとなります。

(単位：cpm)

調査地点		平成 26 年度第 2 四半期の測定結果		
		測定時間 (時間)	平均値	測定値の範囲 (10 分値)
放水口 (南)	1号機放水口	2,172	429	393 ~ 1,864
	2号機放水口	2,197	412	374 ~ 1,331
	3号機放水口	2,205	418	385 ~ 1,015
	4号機放水口	2,197	419	383 ~ 1,006
放水口 (北)	5号機放水口	2,190	436	395 ~ 2,021
	6号機放水口	2,200	430	385 ~ 1,523
	7号機放水口	2,198	429	386 ~ 1,793

#### (2) 調査地点及び測定装置

調査項目	調査地点	測定装置	頻度
海水	放水口(南)(1~4号機) 放水口(北)(5~7号機)	3"φ×3" NaI(Tl) シンチレーション検出器	連続

#### (補足)

海水放射能モニタの単位「cpm」とは、海水放射能モニタが1分間に検出した放射線の数(カウント毎分)のことを言います。



# 添 付 資 料



付表 1 空間線量率の月別測定結果

(単位：nGy/h)

測定地点	年 月	平均値	最高値	最低値	平均値 + 3 $\sigma$	平均値 + 3 $\sigma$ を超えた回数	
						降雨雪	そ の 他
MP-1	26. 4	37	48( 49)	35( 35)	43	12	0
	5	38	52( 57)	35( 35)	44	32	0
	6	39	59( 61)	36( 35)	45	17	0
	7	38	63( 65)	35( 35)	47	22	0
	8	39	68( 71)	35( 34)	51	22	0
	9	37	66( 71)	35( 34)	49	19	0
MP-2	26. 4	31	42( 44)	29( 28)	37	11	0
	5	31	45( 50)	29( 28)	40	23	0
	6	32	52( 54)	29( 29)	38	16	0
	7	31	57( 59)	29( 28)	40	26	0
	8	32	61( 64)	29( 28)	44	22	0
	9	31	60( 71)	29( 28)	43	20	0
MP-3	26. 4	34	46( 48)	32( 31)	40	12	0
	5	35	48( 52)	32( 32)	44	18	0
	6	35	58( 59)	33( 32)	41	19	0
	7	35	60( 63)	32( 32)	44	25	0
	8	36	65( 68)	32( 32)	48	24	0
	9	35	62( 74)	32( 32)	47	15	0

(注) 1  $\sigma$  は、標準偏差を示す。

2 ( ) 内の数値は 10 分間値である。

(単位：nGy/h)

測定地点	年 月	平均値	最高値	最低値	平均値 + 3 $\sigma$	平均値 + 3 $\sigma$ を超えた回数	
						降雨雪	その他
MP-4	26. 4	35	47( 49)	33( 33)	41	14	0
	5	36	49( 51)	34( 33)	42	35	0
	6	37	59( 60)	34( 34)	43	15	0
	7	36	60( 64)	34( 33)	45	26	0
	8	37	65( 68)	34( 33)	49	24	0
	9	36	60( 69)	33( 33)	45	17	0
MP-5	26. 4	38	49( 51)	36( 36)	44	13	0
	5	39	51( 53)	36( 36)	45	33	0
	6	40	60( 62)	37( 37)	46	14	0
	7	39	62( 66)	37( 36)	48	21	0
	8	40	67( 69)	36( 36)	52	20	0
	9	39	63( 75)	36( 36)	48	13	0
MP-6	26. 4	35	47( 48)	33( 33)	41	16	0
	5	36	51( 53)	33( 33)	45	18	0
	6	36	57( 58)	34( 33)	42	16	0
	7	36	60( 63)	33( 33)	45	27	0
	8	37	66( 68)	34( 33)	49	23	0
	9	36	62( 70)	33( 33)	45	17	0

(注) 1  $\sigma$  は、標準偏差を示す。

2 ( ) 内の数値は 10 分間値である。

(単位：nGy/h)

測定地点	年 月	平均値	最高値	最低値	平均値 + 3 $\sigma$	平均値 + 3 $\sigma$ を超えた回数	
						降雨雪	その他
MP-7	26. 4	34	46( 47)	31( 31)	40	12	0
	5	35	46( 51)	32( 31)	41	34	0
	6	35	56( 57)	33( 32)	41	16	0
	7	35	57( 60)	32( 31)	44	22	0
	8	35	65( 66)	32( 31)	47	20	0
	9	34	60( 69)	32( 31)	43	20	0
MP-8	26. 4	32	43( 44)	31( 30)	38	15	0
	5	33	46( 51)	31( 31)	39	36	0
	6	34	53( 54)	31( 31)	40	12	0
	7	33	55( 58)	31( 31)	42	23	0
	8	34	63( 64)	31( 30)	46	17	0
	9	33	59( 67)	31( 30)	42	14	0
MP-9	26. 4	31	42( 44)	29( 29)	37	14	0
	5	32	45( 50)	30( 29)	38	39	0
	6	33	54( 55)	30( 30)	39	15	0
	7	32	55( 58)	30( 29)	41	26	0
	8	33	63( 65)	30( 29)	45	17	0
	9	32	60( 68)	30( 29)	41	15	0

(注) 1  $\sigma$  は、標準偏差を示す。

2 ( ) 内の数値は 10 分間値である。

図1 MP-1～3の空間線量率と降水量及び積雪深との関係  
 (測定期間：平成26年7月1日～平成26年9月30日)

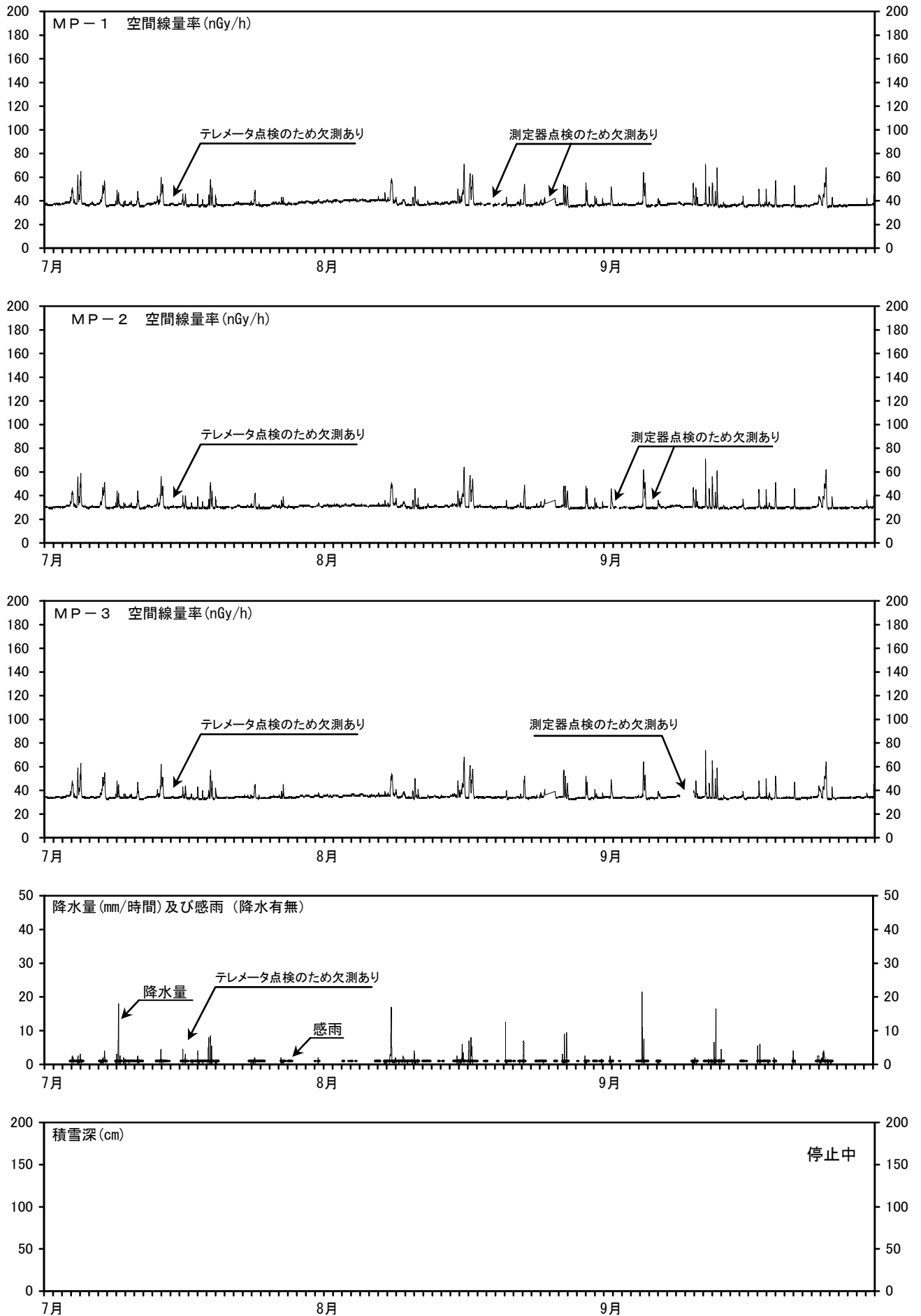




図2 MP-4～6の空間線量率と降水量及び積雪深との関係  
 (測定期間：平成26年7月1日～平成26年9月30日)

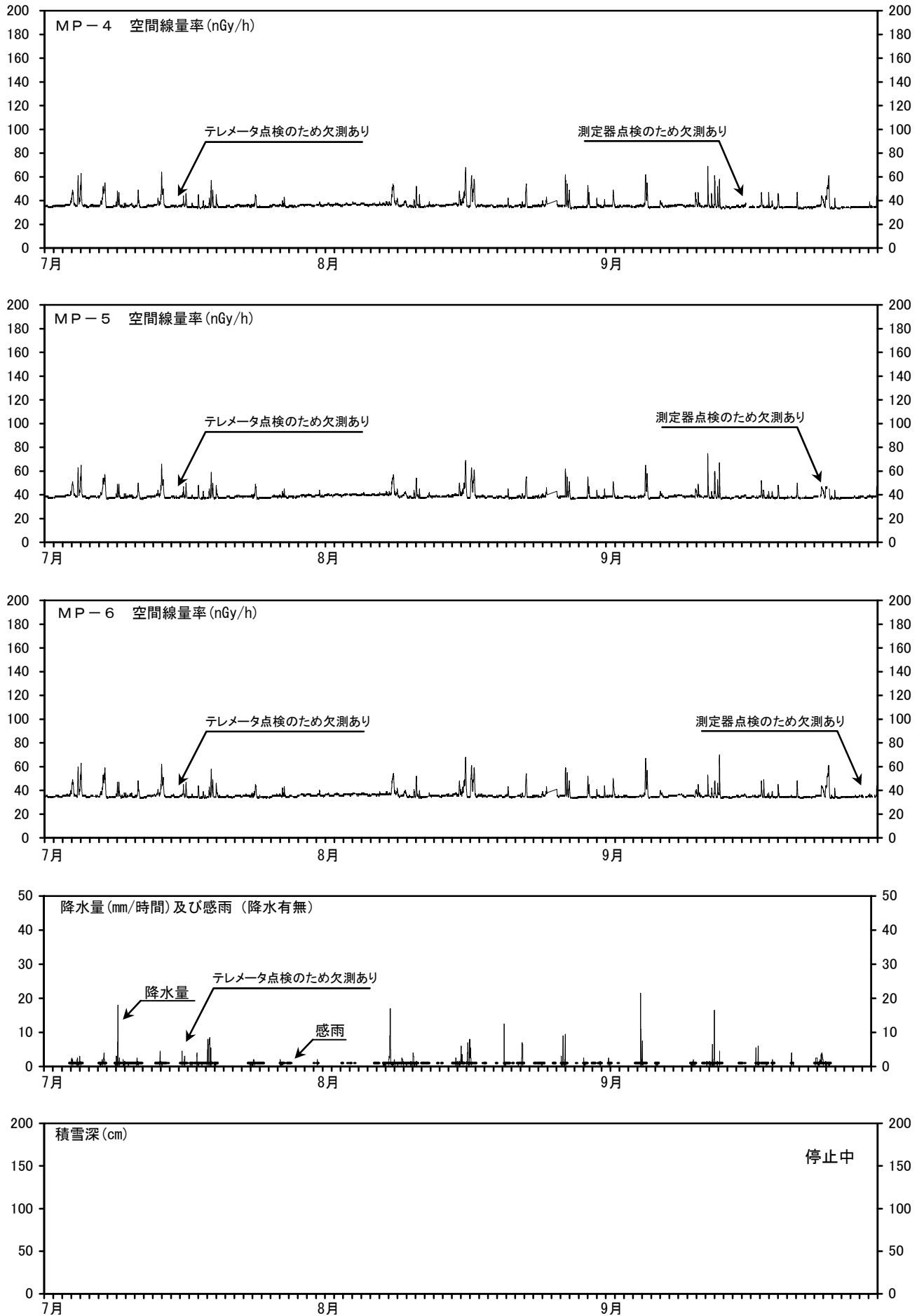
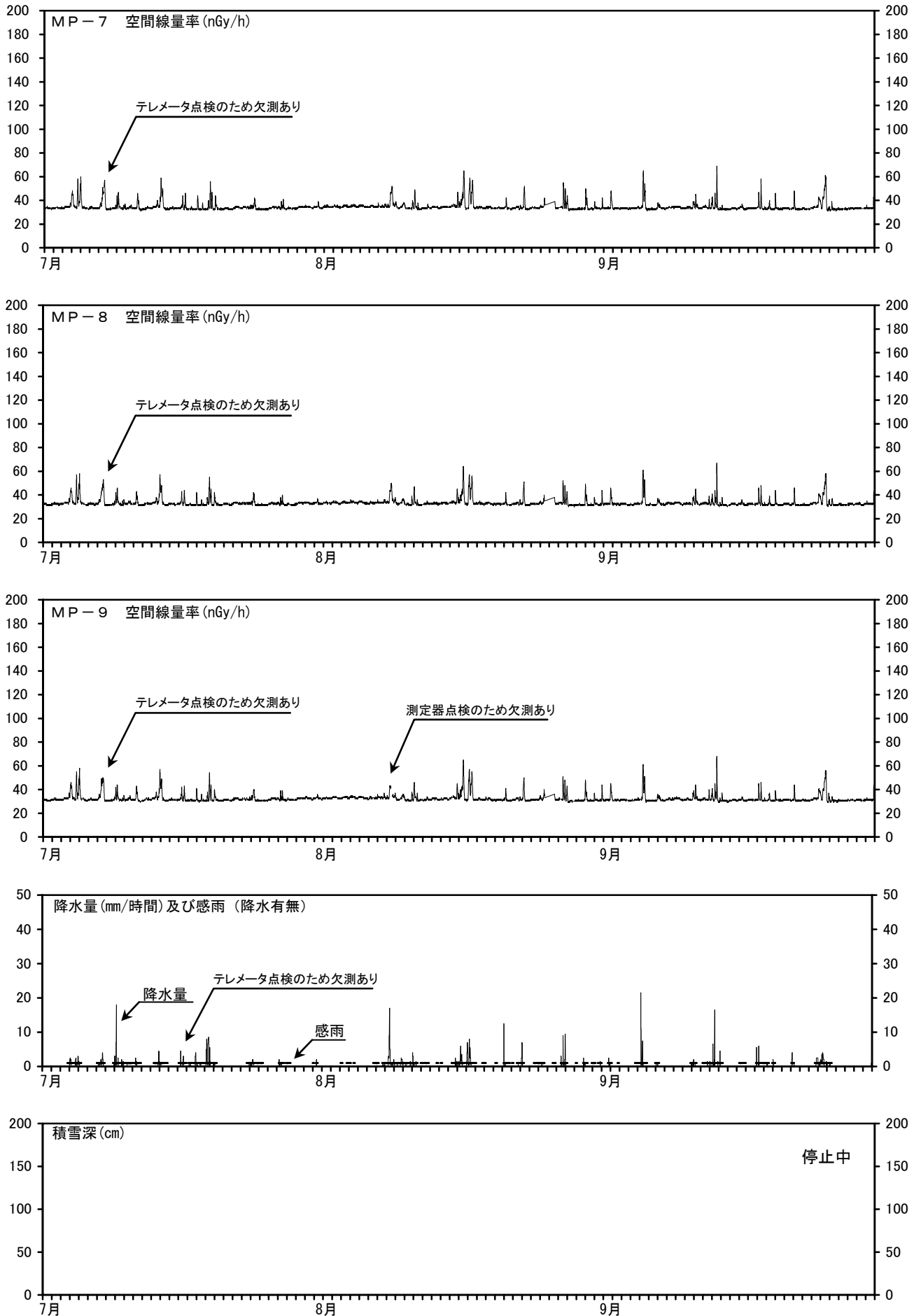


図3 MP-7～9の空間線量率と降水量及び積雪深との関係  
 (測定期間：平成26年7月1日～平成26年9月30日)



付表2 積算線量の測定結果

No.	測定地点	3 か月積算線量 (mGy/91日)				年間積算線量 (mGy/365日)
		第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	
1	MP-1	0.12 (0.13)	0.13 (0.12)			
2	MP-2	0.11 (0.12)	0.12 (0.11)			
3	MP-3	0.12 (0.13)	0.13 (0.12)			
4	MP-4	0.12 (0.13)	0.12 (0.12)			
5	MP-5	0.12 (0.13)	0.13 (0.12)			
6	MP-6	0.12 (0.13)	0.12 (0.11)			
7	MP-7	0.11 (0.12)	0.12 (0.11)			
8	MP-8	0.11 (0.12)	0.12 (0.11)			
9	MP-9	0.11 (0.12)	0.11 (0.11)			
10	柏崎市 椎谷	0.13 (0.14)	0.14 (0.13)			
11	刈羽村 滝谷	0.12 (0.13)	0.13 (0.12)			
12	柏崎市西山町坂田	0.13 (0.14)	0.13 (0.12)			
13	刈羽村 井岡	0.11 (0.12)	0.12 (0.11)			
14	柏崎市 曾地	0.14 (0.15)	0.14 (0.13)			
15	刈羽村 大沼	0.12 (0.13)	0.13 (0.12)			
16	柏崎市 与三	0.12 (0.13)	0.13 (0.12)			
17	柏崎市 上原	0.12 (0.13)	0.14 (0.13)			
18	柏崎市 松波	0.11 (0.12)	0.12 (0.11)			
積算開始年月日		26. 3. 19	26. 6. 25			
積算終了年月日		26. 6. 25	26. 9. 18			
積算期間		98日間	85日間			

- (注) 1 3か月積算線量の( )内の数値は、実測値であり、3か月積算線量は、小数第3位まで求めた実測値の91日換算値である。
- 2 年間積算線量の( )内の数値は、小数第3位まで求めた各四半期の実測値の和であり、年間積算線量は、その365日換算値である。

付表3 浮遊じんの月別全ベータ放射能測定結果

ア 6時間集じんの測定結果

(ア) 集じん終了直後の測定結果

(単位: Bq/m<sup>3</sup>)

測定地点	年 月	集じん回数 (回)	平均空気吸引量 (m <sup>3</sup> /回)	平均値	最高値	最低値
MP-1	26. 4	120	71.8	0.97	2.5	0.22
	5	123	71.9	1.1	2.9	0.22
	6	118	71.9	1.2	4.0	0.16
	7	120	72.1	1.2	2.9	0.25
	8	124	72.0	1.1	2.5	0.15
	9	120	72.5	0.99	2.6	0.23
MP-5	26. 4	118	72.9	0.95	2.4	0.21
	5	123	72.6	1.0	3.2	0.18
	6	120	70.4	0.85	3.6	0.11
	7	118	72.4	1.1	3.2	0.15
	8	124	73.7	1.2	3.4	0.11
	9	120	73.7	1.0	2.5	0.21
MP-8	26. 4	118	76.1	0.99	2.6	0.22
	5	123	75.7	1.1	3.1	0.19
	6	120	75.5	1.2	3.8	0.19
	7	118	75.6	1.2	3.2	0.23
	8	124	75.4	1.2	3.7	0.13
	9	120	75.6	1.1	2.5	0.22

(注) 測定時間は、すべて10分間である。

## (イ) 集じん終了5時間後の測定結果

(単位: Bq/m<sup>3</sup>)

測定地点	年 月	集じん回数 (回)	平均 空気吸引量 (m <sup>3</sup> /回)	平均値	最高値	最低値
MP-1	26. 4	120	71.8	0.040	0.13	0.0020
	5	123	71.9	0.032	0.10	0.00090
	6	118	71.9	0.037	0.16	*
	7	120	72.1	0.028	0.12	0.0011
	8	124	72.0	0.029	0.11	0.00055
	9	120	72.5	0.028	0.096	*
MP-5	26. 4	118	72.9	0.049	0.15	0.00026
	5	123	72.6	0.041	0.13	*
	6	120	70.4	0.035	0.18	*
	7	118	72.4	0.034	0.15	*
	8	124	73.7	0.035	0.15	*
	9	120	73.7	0.036	0.11	*
MP-8	26. 4	118	76.1	0.043	0.16	*
	5	123	75.7	0.034	0.12	*
	6	120	75.5	0.039	0.17	0.00016
	7	118	75.6	0.030	0.13	0.00025
	8	124	75.4	0.033	0.15	0.00090
	9	120	75.6	0.034	0.10	*

(注) 1 測定時間は、すべて10分間である。

2 \*は検出下限値未満を示す。

付表4 環境試料の核種分析結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						自然放射性核種		放射化学分析		備考	
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Ce-144	Be-7	K-40	Sr-90		H-3
浮遊じん	MP-1	26. 4. 30	Bq/m <sup>3</sup>	*	*	*	/	*	*	*	0.0046	/	/	/	
		5. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0037	/	/	/	
		6. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0025	/	/	/	
		7. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0026	/	/	/	
		8. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0018	/	/	/	
		9. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0038	/	/	/	
	MP-5	26. 4. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0048	/	/	/	
		5. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0036	/	/	/	
		6. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0016	/	/	/	
		7. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0025	/	/	/	
		8. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0018	/	/	/	
		9. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0036	/	/	/	

(注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。  
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
 3 \*は検出下限値未満を示す。

試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						自然放射性核種		放射化学分析		備考		
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Ce-144	Be-7	K-40	Sr-90		H-3	
浮遊じん	MP-8	26. 4. 30	Bq/m <sup>3</sup>	*	*	*	/	*	*	*	0.0045	/	/	/		
		5. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0037	/	/	/		
		6. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0026	/	/	/		
		7. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0025	/	/	/		
		8. 31		*	*	*	/	*	*	*	0.0018	/	/	/		
		9. 30		*	*	*	/	*	*	*	0.0038	/	/	/		
陸水	飲料水	26. 4. 1	Bq/ℓ	*	*	*	/	*	*	*	*	0.033	/	*	pH( 6.27 )	
		26. 7. 1		*	*	*	/	*	*	*	*	0.033	/	0.35	pH( 6.08 )	
		26. 4. 1		*	*	*	/	*	*	*	*	0.028	/	*	pH( 6.32 )	
		26. 7. 1		*	*	*	/	*	*	*	*	0.052	/	0.35	pH( 6.08 )	
土壌	陸土 (0~5cm)	26. 5. 9	Bq/kg乾	*	*	*	/	*	5.0	*	7.6	360	*	/	地目:裸地、性状:砂質、色:褐色	
		26. 5. 9		*	*	*	/	*	3.1	*	10	430	/	/	地目:裸地、性状:砂質、色:褐色	

(注) 1 Be-7、K-40は「参考値」である。  
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
 3 \*は検出下限値未満を示す。

試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種							自然放射性核種		放射化学分析		備考		
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Ce-144	Be-7	K-40	Sr-90	H-3			
農産物	米 (精米)	刈羽村 勝山	Bq/kg生														
		刈羽村 高町															
	キャベツ (葉茎)	刈羽村 勝山															
		刈羽村 高町															
	大根 (根部)	刈羽村 勝山															
		刈羽村 高町															
畜産物	牛乳 (原乳)	柏崎市東長島	Bq/l	*	*	*	*	*	*	*	*	46	*		品種:ホルスタイン種、 搾乳牛数:35頭		
				26. 5. 8	*	*	*	*	*	*	*	*	46			品種:ホルスタイン種、 搾乳牛数:20頭	
				26. 8. 5	*	*	*	*	*	0.017	*	*	51			品種:ホルスタイン種、 搾乳牛数:35頭	
		柏崎市北条		26. 5. 8	*	*	*	*	*	*	*	*	46			品種:ホルスタイン種、 搾乳牛数:13頭	
				26. 8. 5	*	*	*	*	*	*	*	*	48				
指標生物	松葉 (2年葉)	発電所 北側	Bq/kg生	*	*	*		*	0.071	*	24	58			品種:クロマツ		
				26. 5. 2	*	*	*		*	0.028	*	38	74			品種:クロマツ	
				26. 8. 1													
		発電所 南側		26. 5. 2	*	*	*		*	0.15	*	28	57			品種:クロマツ	
				26. 8. 1	*	*	*		*	0.11	*	39	60			品種:クロマツ	

- (注) 1 Be-7、K-40は「参考値」である。  
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
 3 \*は検出下限値未満を示す。



試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種							自然放射性核種		放射化学分析		備考	
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Ce-144	Be-7	K-40	Sr-90	H-3		
海水 (表層水)	放水口 (南)付近	26. 5. 13	Bq/l	*	*	*	/	*	0.0019	*	*	/	/	*	pH : 8.18、塩分量 : 32.7	
		26. 7. 8		*	*	*	/	*	0.0042	*	*	/	/	*	pH : 8.16、塩分量 : 32.9	
	放水口 (北)付近	26. 5. 13		*	*	*	/	*	0.0032	*	*	/	/	*	pH : 8.28、塩分量 : 32.5	
		26. 7. 8		*	*	*	/	*	0.0022	*	*	/	/	*	pH : 8.23、塩分量 : 33.0	
海底土 (表層土)	放水口 (南)付近	26. 5. 20	Bq/kg乾	*	*	*	/	*	*	*	*	400	/	/	水深:約11m、 試料の状況:砂質	
	放水口 (北)付近	26. 5. 20		*	*	*	/	*	*	*	9.2	530	/	/	水深:約9m、 試料の状況:砂質	
海産物	マダイ (可食部)	発電所 前面海域	26. 5. 28	Bq/kg生	*	*	*	/	*	0.10	*	*	140	/	/	発電所沖合:約4km
	ヒラメ (可食部)	発電所 前面海域	26. 5. 29		*	*	*	/	*	0.13	*	*	130	/	/	発電所沖合:約4km
	サザエ (可食部)	柏崎市椎谷岬 (観音岬)	26. 8. 27		*	*	*	/	*	*	*	9.4	66	*	/	
	ワカメ (葉茎)	放水口 (南)付近	26. 5. 20		*	*	*	*	*	*	*	0.47	180	/	/	
		放水口 (北)付近														

- (注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。  
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
 3 \*は検出下限値未満を示す。

試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種							自然放射性核種		放射化学分析		備考		
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Ce-144	Be-7	K-40	Sr-90	H-3			
指標生物	ホンダワラ類 (葉茎)	放水口 (南)付近	Bq/kg生	26. 5. 20	*	*	*	*	*	*	*	4.2	380	0.045		品種：イソモク	
				26. 9. 3	*	*	*	*	*	0.089	*	15	310			品種：イソモク	
		放水口 (北)付近		26. 5. 20	*	*	*	*	*	*	*	2.8	420				品種：イソモク
				26. 9. 3	*	*	*	*	*	*	*	11	350				品種：イソモク

- (注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。  
2 放射能濃度の有効数字は2桁である。  
3 \*は検出下限値未満を示す。

付表5 海水放射能モニタの月別測定結果

(単位：cpm)

調査地点	年 月	測定時間 (時間)	平均値	最低値 (10分値)	最高値 (10分値)
放水口(南) 1号機放水口	26. 4	720	447	405	695
	5	744	438	401	571
	6	720	440	405	854
	7	733	432	403	584
	8	724	430	399	561
	9	715	425	393	1,864
放水口(南) 2号機放水口	26. 4	720	431	393	702
	5	744	424	390	963
	6	720	424	388	999
	7	734	416	384	627
	8	744	413	382	579
	9	719	407	374	1,331
放水口(南) 3号機放水口	26. 4	720	445	399	1,023
	5	744	439	397	1,475
	6	710	431	397	1,176
	7	742	420	392	551
	8	744	419	391	672
	9	719	415	385	1,015

(単位：cpm)

調査地点	年 月	測定時間 (時間)	平均 値	最低 値 (10 分値)	最高 値 (10 分値)
放水口(南) 4号機放水口	26. 4	720	437	399	922
	5	744	434	392	1,146
	6	720	430	392	1,088
	7	734	423	390	656
	8	744	419	383	849
	9	719	413	383	1,006
放水口(北) 5号機放水口	26. 4	720	449	402	923
	5	744	441	400	754
	6	720	441	405	997
	7	727	437	401	998
	8	744	438	399	896
	9	719	434	395	2,021
放水口(北) 6号機放水口	26. 4	720	447	400	628
	5	744	439	401	1,032
	6	720	439	403	799
	7	743	432	398	864
	8	738	432	396	1,207
	9	719	425	385	1,523

(単位：cpm)

調査地点	年 月	測定時間 (時間)	平均 値	最低 値 (10 分値)	最高 値 (10 分値)
放水口(北) 7号機放水口	26. 4	720	449	404	541
	5	744	444	394	742
	6	720	445	410	923
	7	743	439	400	847
	8	736	426	390	1,079
	9	719	421	386	1,793



# 事 象 報 告





## 事象報告 1 平成 26 年度第 2 四半期の積算線量の測定結果について

平成 26 年度第 2 四半期における積算線量の測定地点全 18 地点のうち、刈羽村大沼及び柏崎市上原について、対照期間（事前調査期間を除く）の同一四半期における測定値の範囲を超えたため、以下の通り調査を行った。

その結果、刈羽村大沼及び柏崎市上原の測定値が対照期間（事前調査期間を除く）の同一四半期における測定値の範囲を超えた原因は、当発電所からの影響によるものではなく、自然変動によるものと推定した。

調査結果を以下に示す。

### 1. 測定状況

平成 26 年度第 2 四半期における刈羽村大沼及び柏崎市上原の積算線量の測定結果を下表に示す。また、同地点の対照期間（事前調査期間を除く）以降の積算線量の推移を下図に示す。

表 平成 26 年度第 2 四半期の積算線量の測定結果

(単位：mGy/91 日)

測定地点	平成 26 年度第 2 四半期の測定結果 (積算開始：H26. 6. 25 積算終了：H26. 9. 18 積算期間：85 日間)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)		福島第一原子力発電所事故発生年度以降の第 2 四半期の測定結果 (H22～H25 年度)
		福島第一原子力発電所事故前の第 2 四半期 (H17～H21 年度)	事前調査期間 (S57.4～S59.12)	
刈羽村 大沼	0.13 (0.125)	0.12 (0.119～0.123)	0.10～0.15	0.12～0.13
柏崎市 上原	0.14 (0.135)	0.13 (0.129～0.134)	0.10～0.16	0.13～0.14
全 18 地点	0.11～0.14	0.11～0.14	0.08～0.17	0.11～0.14

(注) ( )内の数値は、有効数字 3 桁の値を示す。

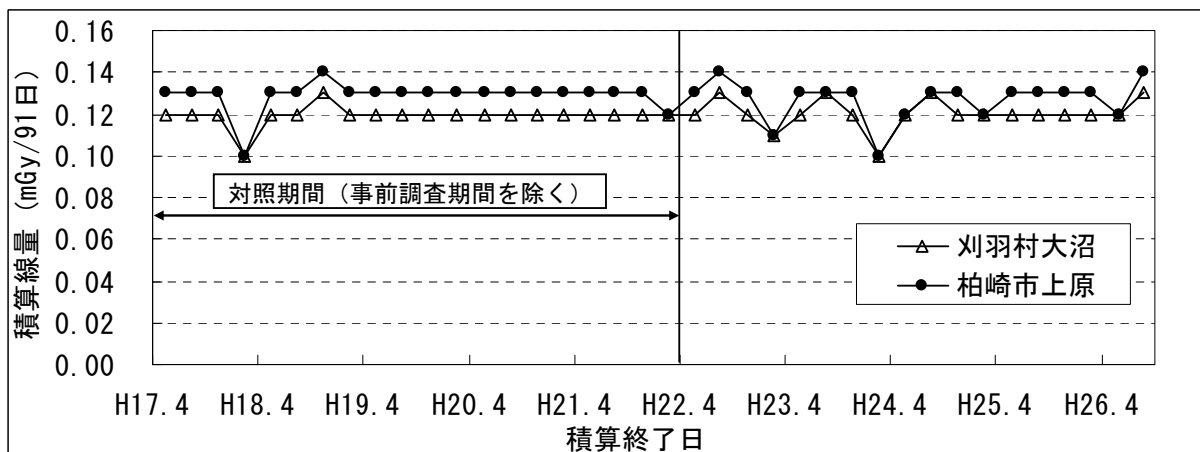


図 刈羽村大沼及び柏崎市上原の積算線量の推移（平成 17 年度以降）

### 2. 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査を実施した結果を以下に示す。

- (1) 平成 26 年度第 2 四半期において、当発電所からの放射性気体廃棄物の放出放射能濃度は、トリチウムを除き、検出下限値未満であった。
- (2) 有効数字 3 桁での測定結果では、刈羽村大沼及び柏崎市上原について、対照期間（事前調査期間を除く）の最大値との差はそれぞれ 0.002mGy/91 日及び 0.001mGy/91 日と僅かである。

- (3) 積算線量の測定装置に異常は見られなかった。
- (4) 積算線量測定地点の周囲の状況に変化は見られなかった。
- (5) モニタリングポストの指示値に異常は見られなかった。

### 3. 推定原因

調査結果より、平成26年度第2四半期における刈羽村大沼及び柏崎市上原の測定値が、対照期間(事前調査期間を除く)の同一四半期における測定値の範囲を超えた原因は、当発電所からの影響によるものではなく、自然変動によるものと推定した。

以 上

## 事象報告 2 平成 26 年度第 2 四半期のホンダワラ類の測定結果について

平成 26 年度第 2 四半期に採取したホンダワラ類からセシウム 137 (Cs-137) が検出され、対照期間(事前調査期間を除く)の測定値の範囲を超えたため、以下の通り調査を行った。

その結果、検出されたセシウム 137 は、過去に行われた核実験等による影響と推定した。調査結果を以下に示す。

### 1. 測定状況

平成 26 年度第 2 四半期に採取したホンダワラ類の核種分析結果を下表に示す。

また、セシウム 137 の測定値の推移を下図に示す。なお、グラフ中のプロットがない期間については、同核種が検出下限値未満であったことを示す。

表 平成 26 年度第 2 四半期のホンダワラ類の核種分析結果

(単位: Bq/kg 生)

採取地点	採取年月日	平成 26 年度第 2 四半期の測定結果(測定値の範囲)	対照期間の測定結果(当該核種の測定値の範囲)		福島第一原子力発電所事故発生年度以降の測定結果(H22~H25 年度)
			福島第一原子力発電所事故前(H17~H21 年度)	事前調査期間(S59.12 まで)	
放水口(南)付近	H26.9.3	Cs-137 0.089 <sup>※1</sup>	*	* ~ 0.16	* ~ 0.26
放水口(北)付近	H26.9.3	Cs-137 *			

(注) \*は検出下限値未満を示す。

※1 計数誤差を併記した Cs-137 濃度:  $0.089 \pm 0.030$  (検出下限値: 0.088)

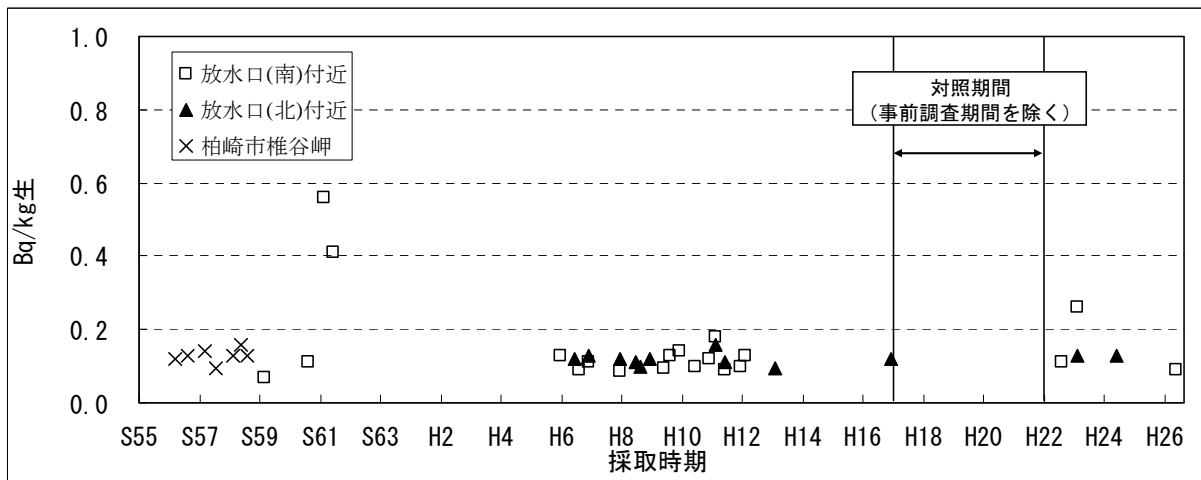


図 ホンダワラ類中の Cs-137 濃度の推移

### 2. 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査を実施した結果を以下に示す。

- (1) 平成 26 年度第 2 四半期において、当発電所からの放射性液体廃棄物の放出放射能濃度は、トリチウムを除き、検出下限値未満であった。
- (2) 試料の前処理及び測定装置に異常は確認されていない。
- (3) 今回検出された値は、検出下限値 (0.088Bq/kg 生) を僅かに超えた程度である。また、福島第一原子力発電所事故発生前の平成 22 年 11 月 17 日に採取した試料から検出された値 (0.11Bq/kg 生) の範囲内にある。

(4) 新潟県によるホンダワラ類の対照期間（事前調査期間を除く）の測定値の範囲（\*～0.087Bq/kg 生）と比較して、同程度であった。

### 3. 推定原因

調査結果より、平成26年度第2四半期に採取したホンダワラ類から検出されたセシウム137の値が、対照期間（事前調査期間を除く）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所からの影響によるものではなく、過去の核実験等の影響によるものと推定した。

以 上